



OTONARI ARTIST  
2023

この事業は、国内外からお寄せいただいた寄附金をもとに造成された「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。



学校連携共同ワークショップ  
おとなりアーティスト

2023

アートによる新生ふくしま交流事業 「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」

## 学校連携共同ワークショップ おとなりアーティスト 2023

学校連携共同ワークショップとは、美術作家を講師として招き、各学校等で子どもたちを対象としたワークショップを開催するアートプログラムです。作家が学校に出向いて子どもたちと交流しながら、一緒に創作活動を楽しみます。

ワークショップでは、授業内のみならず、学年や部活動、学校全体で活動することもあり、作家のユニークなプログラムを通して、いつもとは違う「創る喜び」を体験することができる内容になっています。

「おとなりアーティスト」には「文化を発信する人」が近隣地域で活躍していることを子どもたちや学校の先生に知ってもらい、子どもたちに作家との交流を通じて、アートが遠い世界のものではないということを体験的に感じて欲しいというねらいがあります。

今年度のワークショップは、福島県在住の作家FRIDAY SCREEN（アートユニット）、よしもと みか（移動絵本図書館 みず文庫）を講師に招き、県内10カ所の学校等でワークショップを開催しました。

# FRIDAY SCREEN ワークショップ

## 「<sup>でこ</sup><sup>ぼこ</sup>凸凹テキスト」

私たちの周りにあふれている「文字=テキスト」をテーマにしたワークショップです。

みなさんが普段書いている「文字」は平面ですが、これに“奥行き”をつけてあげると立体感が生まれます。それぞれの学校の特徴をもとにテーマと内容を考え、実施しました。

ワークショップでは、はじめに「みなさんはこれから〇〇デザイナーになってもらいます」と伝えられます。少し難しそうに感じますが、FRIDAY SCREENさんのプログラムでは、楽しく簡単なゲームを通して、デザインの考え方を自然と身につけることができます。制作に入る頃には、子どもたちの脳みそはフル回転し、どんどん手を動かしていくようになっています。そして作品ができた時には、難しいと思っていたことが自分たちにもできた、という達成感を持って終えられます。子どもたちはワークショップを通して、自分が感じたことを言葉にし、形にする方法や、アイデアの出し方、発想の転換の仕方などを学び、実践しました。

### ワークショップ会場

- ▶ 須賀川市立岩瀬中学校
- ▶ 郡山ザベリオ学園小学校
- ▶ 福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）
- ▶ 郡山市立日和田中学校
- ▶ 郡山市立御館中学校
- ▶ 会津美里町本郷生涯学習センター



### FRIDAY SCREEN

アートユニット

2015年「FRIDAY SCREEN」活動開始。  
“From Local, For Local, With Local”をコンセプトに、デザインによる福島の地域資源の発掘と発信を目的に活動を行う。地域に密着したプロダクトやグラフィックといったデザインの仕事のほか、ワークショップイベントや朝市などの企画・運営をはじめ、他分野の専門家とコラボレーションした商品開発やワークショップを行うなど様々な活動をしている。



# 10/4(水) 須賀川市立岩瀬中学校(1年生)

36名参加  
(2クラス  
それぞれに実施)

## 「触れる文字」

触った時の「感触」の記憶を言葉にして、デザインしました。最初にグラフィックデザイナーになるための、脳みそづくりゲームからスタート。「ばりん」「ざくざく」などの音から、どれくらい硬いおせんべいを想像したり、鉛筆でひらがなの「あ」を太く描いたり、細く描いたり…。どんな形で「あ」を描いたら「びっくり」や「うれしい」などの感情が伝わるかを、考えながらたくさん書き出します。

後半では、感触を表すオノマトペを考え、その中から好きなものを選んでデザインし、自分と同じくらいか、それ以上の大きさになるよう段ボールで作品を作ります。「いいね」「すごいね」「おもしろいね」…と、アイデアを肯定してくれる講師が見守る中、文字をカッターで切り抜き、つなげていく生徒たち。一つ一つが独特の存在感を放つ大迫力の「触れる文字」が完成しました。



## 参加者の声

- ちょっとした言葉でも、人それぞれ表現の仕方が違うことが分かった。言葉を形にするという発想がなかったため、今後に生かせればいいと思います。
- みんな個性ある創作文字ができ、自分も色々な発想ができるようになってほしいと思いました。とても楽しいワークショップでした。
- いろんなオノマトペがあることを知った。

- 友達の表現を見ているんな表現があって面白かった。
- アイデアを生み出す(膨らませる)ことが苦手な生徒が、ワークショップ前半の脳みそづくりの段階で、楽しそうに描き、それを嬉しそうに人に見せていた姿が印象的でした。既存の形にとらわれず、のびのびと発想を広げていく子どもたちの姿に勇気をもらいました。(教師)

## 参加者の声

- 風の文字を、本物の風みたいにかくことができた。
- グラフィックデザイナーになることができ、楽しかったです。
- 風の文字をダンボールに貼るときに、テープをいっぱいつけたことで「ふわっ、ふわっ」とした感じにできました。
- 風の音を考えるとところが印象に残りました。

た。考えるのは難しかったけど、間違えてもいいから最後まであきらめないでやればどんなことも楽しくできると分かりました。

●一人ひとりが、生き生きと学習に取り組んでいた。(教師)

●子ども達はどうしても、描くものが小さくなりがちだが、ステップを踏みながら自分の思いを自由に、大きく表現できていたのが印象的でした。(教師)



# 10/5(木) 郡山ザベリオ学園小学校(1年生)

26名参加

## 「ひらひらひらがな」

吹き渡る「風」のオノマトペをひらがなで表現しました。まずは、脳のストレッチから。おせんべいを食べた時の音や硬さを想像したり、講師が見せる「あ」のバリエーション、一つ一つの変化に対し、大きな声で笑ったり、後ろにひっくり返ったりと豊かに反応する子どもたち。A4の紙に誰が一番太く書けるかがんばったり、A3を2枚つなげた紙にできるだけ大きく書いたりしました。ふにゃふにゃな「あ」、硬い「あ」など、楽しみながら言葉のイメージ化を学んだところで本題です。

強い、弱い、暖かい、雨の日など、みんなでいろいろな風の音を考えました。「びゅ」「そわそわ〜」「ばーー」「ひゅー」…たくさん出た中からお気に入り一つ選んで、どんな感じの風なのかを伝えるようデザインしました。一生懸命考え続けて、イメージに近い文字が出来たら、風のように薄いピンク、黄、緑の紙から1枚選び、文字を下書きし、はさみで切り抜いて完成です。この日は台紙に貼って終えましたが、参加校作品展では、文字をネットに貼って吊るし、文字たちがひらひらと風でなびいていました。

# 10/20(金) 福島市教育委員会教育研修課

(ふれあい教室・小学生～中学生)

## 「こだまニュータウン」

街や公園などの空間をデザインする建築家・ランドスケープデザイナーになって、「自分が住んで心地よい街では、どんな音がするか」を考えます。小学生から中学生まで、同じテーマに取り組みました。

1日目は、ゲームを通して、子どもたちの脳をほぐします。鉛筆でひらがなの「あ」をいろいろな形で書いたり、ハンバーグや雨の日、工事現場などの写真から聞こえてくる音を想像して、言葉にしたり…。同じ写真を見ているのに、一人ひとり

感じ方が異なる面白さも味わいました。

2日目は、デザインから造形まで行いました。「住みよい街から聞こえてくる音」を考え、好きな音を選んで、ただでさえどんな音が伝わるようにデザインしました。猫の鳴き声、お店のドアベルなど、思い入れたっぶりの文字が生まれました。黒いラシヤ紙に大きく書いて切り抜いていきます。

3日目は仕上げです。文字の続きを制作し、完成した人から、ニュータウンに建ち並ぶ白い段ボールの家を思い思いにデコレーションして、心地よい音がする住みよい街を作っていました。

11/ 9(木)

11/10(金)

延べ17名参加



### 参加者の声

- いつもはすることのない活動や、「あ」から色々な事をするのは初めてだったので、面白かったです。思いっきり鉛筆で描くのはストレス解消にもなりました。またやりたいと思いました。
- 難しいのかなって思ったけど、意外と簡単で楽しくできたのでよかったです。自分らしさを出せたのでよかったです。
- いろんな「あ」を描けて楽しかったです。

- ぼくは絵が苦手でしたが、アートについて学ぶことでとても楽しく活動することができました。自分が思っていたよりも多くいろいろなアイデアを出せました。
- お互いに作品を見合うことで、友達の技法をどんどん自分の表現に取り入れて、新しい表現を生み出していることは、とてもうれしいことです。(教師)



### 参加者の声

- ワークショップでは「おせんべい」の音で、かたいかやわらかいかで分けたりしたことがすごくおもしろかったです。例えば「パリパリ」だと、かたいかやわらかいかが人それぞれ違って、とても印象に残りました。
- 相手に合った漢字を作ることがとても楽しかったです。相手のことをよく思い出してその人に似合っている漢字の右側をカッターで切るのが難しく、時間も

かかったけど、とてもよい思い出になりました。

- 初めは戸惑っていた様子でしたが、頭を柔らかくしていくうちに、真剣な顔つきになり、つぶやきや意見交換など声ができるようになりました。自分と友だちとの感性の違いや、友だちの内面に気付いていく時に見せた表情を見ることができてうれしかったです。(教師)

# 11/11(土) 郡山市立日和田中学校(美術部)

7名参加

## 「君+(ぶらす)」

友達を漢字一文字で表現しました。準備として、おせんべいの音をオノマトペで表現したり、ひらがなの「あ」を使って鉛筆で太く書いたり、悲しく書いたり、周りの友達の「あ」を観察したり…。思考を柔らかくしたところで、2人または3人組になってインタビューし合いました。友達に自身の長所や短所、好きなものなど尋ねた後、聞き手の思いも加味しながら友達を深掘りし、イメージを言語化・単純化・記号化して漢字にしていき

ます。漢字には、「人偏(にんべん)」が入る前提で、旁(つくり)を作ること、友達と同じくらい大きな作品にするという約束が伝えられました。生徒たちは、自分だけが知る友達、今日気づいた意外な一面など思い浮かべながら想像力を発揮。考案した漢字を段ボールから切り出していました。

出来上がると、友達自身が旁(つくり)の隣で「人偏(にんべん)」役になると発表され、驚きと笑いが巻き起こり、作ってもらった漢字と並んで写真撮影をしてワークショップを終えました。

# 11/13(月) 郡山市立御館中学校(1・2年生)

26名参加

## 「Tiny Riot」

1・2年生合同で挑戦しました。宿題の「わたしはこれが好き!」「前から思ってたんだけど…」「これがなきゃ困る!」など、7つの質問に対する答えから、発表したいものを小さな主張として選び、それにふさわしい感嘆符「!」または疑問符「?」をデザインしました。オノマトペを使ったり、様々なフォントを見たり、書いたりしながら、工夫の仕方では印象が変わることを体験したら作品づくりです。感情をイメージ化し、デザインを考え、

段ボールで立体にしていきます。いつもの美術の授業と違う展開に、戸惑いながらもパワー全開で臨んでいました。

作品は、メガネと稲妻型の感嘆符は「Q.私はこちらが好き! A.ハリー・ポッター!」、布団のような感嘆符は「Q.これがなきゃ困る! A.ねること!」など。怒りと泣きの感情を閉じ込めた疑問符で伝えたかったのは「Q.前から思ってたんだけど… A.給食ににんじんしか出ない」です。できた作品と一緒に写真撮影をして完成となりました。



## 参加者の声

- どのように書くかという表現の仕方や工夫一つで印象が変わるんだなと思いました。「あ」を、うれしい感じに、やわらかい感じに、悲しい感じになど、色々なバリエーションがありました。みんな個性豊かな描き方をしている人を見て、おもしろかったです。
- 特に印象に残ったことは、オノマトペをかたいものなのか、やわらかいものなのかを音だけで判断したことです。

私にとっては初めてのことで、最初はとまどいながら行いましたが、やっていくうちに他の人の考え方を参考にしたりして楽しくできました!

- 頭をフル回転して瞬時に判断して手を動かし、気がついたら大きな立体物ができていたという体験。生き生きとした目が印象的でした。個別にアドバイスをいただきパワーアップした作品をつくることができ満足そうでした。(教師)

## 参加者の声

- 好きなだけ建物に色を塗れたのがおもしろかった。キズは宝物だ。またやりたいです。絵の具がなくなったことにびっくりした。
- いろいろな絵がかけて今まで一番いっぱい絵がかけた。
- とてもおもしろかったし、あまりこういった機会はないので、またやりたいです。とてもおもしろかった。思い出になると思います。

- たくさんの場所に色をつけて「カラフル」にしたから忘れられない記念になったと思います!!楽しかったです!
- 子どもたちがいろいろな場面で見せる笑顔が全てです、とても楽しかったんだなと思います。自由にペイントできる機会はまずこの先もあるかわからないので、貴重な経験になったと思います。一人一人満足して帰りました。(職員)



# 12/16(土) 会津美里町本郷生涯学習センター (年中～小学校6年生)

25名参加

## 「痕跡(あとあと) Wake Up」

会場は、2023年度で役目を終え、新しい建物に引越すことになった会津美里町の本郷生涯学習センター(1982年築)です。建物の全てを使って、カラフルに色を塗るワークショップを開催しました。はじめに学習センターでの思い出を尋ねると「習い事の練習をした」「本を借りた」「遊んだ」「文化祭」など、次々に記憶が蘇ります。「どんどん色を塗って傷を目立たせてあげて。みんなが塗った分だけ思い出がよみがえるから」との講

師からの声かけのもと、はじめは遠慮がちだった子どもたちも、やってダメなことはない、もっとやっていいと分かり、どんどん大胆になっていきます。刷毛やローラーを持った子どもたちが1階玄関、階段、ホール、和室と進む中、差し込む光に反射する傷を発見したり、床に手型を押したり、指で水玉をペイントする子も。一生に一度の経験になるかもしれないプログラムを、自身も絵の具まみれになりながら思いっきり楽しみ、この日の笑顔の痕跡も建物中に残りました。



## 作家からのメッセージ FRIDAY SCREEN

美術館のみなさま、認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島のみなさま、そしてワークショップに参加して下さった各校の先生方、たいへんお世話になりました。ありがとうございました！

この事業では、いつも「文字とデザイン」をテーマにワークショップを考えています。何度も同じテーマでやらせていただいているのですが、子どもたちの作品は一つとして同じものではなく、新鮮で刺激的で、のびのびとしています。短時間で小さなデザイナーさんたちから生まれる作品を目の当たりにできるのはとても楽しい体験です。

今年、過去にこの事業でわたしたちのワークショップに参加してくれた生徒さんにお会いする機会がありました。当時は中学生でしたが、今は高校生になっていました。わたしたちのことを覚えていてくれて、声をかけてきてくれたのがとても嬉しかったのですが、それ以上に嬉しかったのが、「わたし、あのワークショップを活かして、今LINEスタンプ作ってるんです」と言っていたことでした。そんな応用をしているなんて…！と感激しました。LINEスタンプは、文字とデザインで感情を伝えることができるツールです。しかも考えて作って終わり、ではなく、外に発信することができるというのがいいですね。まるでデザイナー仲間ができたような嬉しさがありました。ワークショップはたった一日の数時間ですが、少しは誰かの中に残っていて、新しい何かが生まれているというのが知ることができて、とても励みになった出来事でした。

ついでにわたしの中に、今度は応用編のワークショップもやってみたい…という欲が…。次回のわたしたちのワークショップは「LINEスタンプのデザインワークショップ」かもしれません。…まあ、それは冗談ですが、またこの事業に参加することがあれば、もっと実用的なデザインのワークショップをやるのも楽しいかもしれないと思いました。それではまた小さなデザイナーさんたちに会えるのを楽しみにしています！

# よしもとみか ワークショップ 「私の「いま」を色と形で表現してみよう」

教室の子どもたちと日々触れ合っている先生と話をして、それぞれの学校に合った素材や画材を選び、色と形で私の「いま」を表現するプログラムと一緒に創ります。

プログラムは、アートが好きな子も、苦手意識を持つ子も、すべての子どもたちが心から楽しめるように考えられており、よしもとさんの丁寧な声かけのもと、段階を踏んで展開していきました。子どもたちは、時には没頭し、時にはまわりと協力しながら創作活動を楽しみました。出来上がった作品には“自分らしさ”が表われており、自分の感性を再発見し、お互いの良さを味わう機会となりました。

### ワークショップ会場

- ▶ 福島県いわき支援学校くぼた校
- ▶ 小野町立小野小学校
- ▶ 福島県立富岡支援学校
- ▶ 福島県立伊達高等学校



### よしもとみか 移動絵本図書館 みず文庫

みず文庫は、福島県天栄村で出会ったイラストレーター・コーディネーターのよしもとみか、木工職人の矢板桂佑、編集・ライターの高橋純で活動。東日本大震災をきっかけに版画家の蟹江杏氏が世界中から集めた絵本の一部を預かり、2013年から車で移動する絵本図書館を開始。県内イベントを中心に出版し、絵本のよみかせやワークショップを展開し、親子の憩いの場として親しまれている。2019年より、絵本作家さんと遊ぶの会を企画・主催（年1回）2020年福島民報社の企画・制作の絵本『きぼうのとり』の絵（よしもと）と文（江藤）を制作。翌年、福島民報社より発行。2021年5月より、白河市の南湖公園内にアトリエを構える。



# 10/19(木) 福島県立いわき支援学校くぼた校 (高等部1年生)

12名参加

デカルコマニー※の手法でたくさんの羽ばたく蝶を作りました。イメージを膨らませるために、よしもとさんが朗読したのは、絵本「ぱったんして」(松田奈那子/作、KADOKAWA/刊)です。前半は、金色の紙を使いました。紙の折り目に墨を垂らし、閉じてから広げると蝶のような形が現れました。乾かした後、割り箸で墨を削って模様を描き、オイルパステルで着色します。できた形を切り抜き、金色の台紙に半面貼りつけると、羽ばたく蝶ができました。

後半は、大きな蝶づくりです。大きな色紙とアクリル絵の具を使って制作しました。豪快に絵の具を振り落としたり、数人で協力して作る姿も見られ、紙を開く瞬間には「おお〜!」と歓声が上がりました。全身を使って思いっきり表現することを楽しみ、できた色の混ざり合いや形の変化を十分に味わいました。

※二つに折った紙と紙の間に絵の具をはさんで閉じ、広げて左右対称の模様を作る技法。フランス語の動詞「décalquer = 転写する」に由来。



## 参加者の声

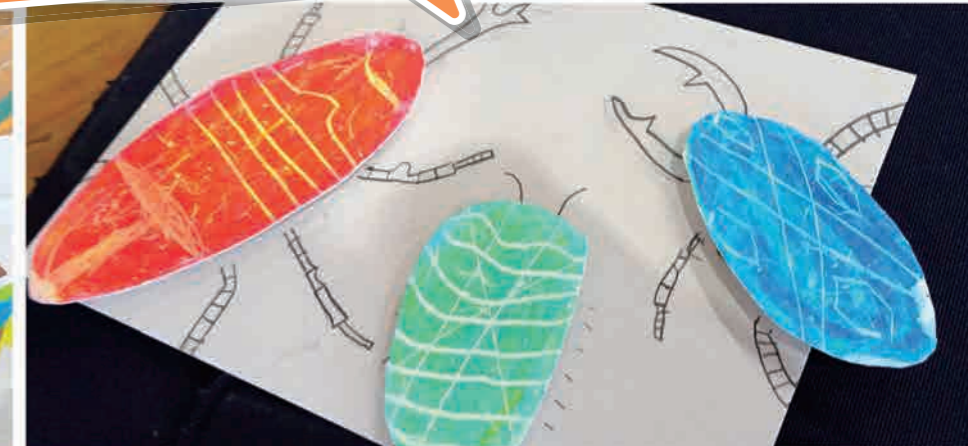
- “けずり”がおもしろかったです。
- いろいろな色を使ってちょうちょを作って楽しかったです。あと大きいちょうちょを作りました。
- また新しいことを覚えられたので、大満足です。すごく楽しかったです!
- 講師の先生に教えてもらい、水色と青色でチョウチョができておもしろかったです。

- かわいく作れたので嬉しかったです。楽しい授業をありがとうございました。
- 美術はやっぱり自由がいいですね。絵から想像が広がるからです。
- ゴールデンバタフライのスクラッチの形を、生徒自身個性を出して表現することができたと思います。大きな紙になった時のアクティブな様子は、普段の授業であまり見ない顔だったので印象的でした。(教師)



## 参加者の声

- 学べたことは人によって作品が違うことです。みんな違ってみんないいと思いました。これから大切にしたいことは、自分の考えを大切にしたいと思いました。
- 芸術ワークショップを通して、色を混ぜて楽しむのがとっても楽しかったです。タブレットで見た虫よりも自分のオリジナル虫ができたんじゃないかなと思いました。
- 私はてんとう虫を3匹書きました。自分色でみどり・むらさき・あか…としました。そしたら自分色でこの世に一つのでんとう虫に染まったな—と思いました。
- 苦手だった虫がアートになることによって、愛着を持つようになっています。(教師)
- 制作のプロセスの面白さ、(これがどうなるのだ等)というワクワク感にひたっていました。(教師)



# 11/2(木) 小野町立小野小学校(6年生)

65名参加

昨年度につづき、2年目となる今年のワークショップの題材は「昆虫」です。詩人・谷川俊太郎さんの「虫」の朗読から始まりました。子どもたちは事前に好きな昆虫の写真を用意しており、虫を描くのかなと思っていたら、まずは“今の自分が好きな色”づくりです。どのように虫になっていくのかなと思いつつも、よしもとの「形を気にせず色を楽しんで」との声がけのもと、オイルパステルでぐりぐりと色を塗り重ね、色の変化を楽しんでいきます。色ができたら割り箸でひっかいて模様をつけ、粉をかけてさらにこ

すり、感触や色の変化を味わいます。色の形を切り取り、台紙に貼って、まわりに触角や足を描きこむと…あっ、虫の姿ができました。作品は、虫をよく観察した精緻なものや、独自の色や形が特徴的なもの、色のパーツを組み合わせて見えた形の虫にしたものなど、同じ工程をたどりながらもそれぞれの個性が現れたものとなりました。2年間受けたよしもとのさんのプログラムから、自分の感性を大切にすることなど、子どもたちは多くのメッセージを受け取りました。



# 11/16(木) 福島県立富岡支援学校(小学部1~6年生)

20名参加

床一面に6mの巨大なプチプチ(緩衝材)が敷いてあり、窓や梁にはのれん形のプチプチが架かり、部屋の天井からは○や□や花の形の小さなプチプチが垂れ下がります。子どもたちは全員で巨大プチプチを囲んで座り、期待感の中でワークショップは始まりました。

最初に、手のひらサイズのプチプチをくしゃくしゃにしたり、丸めたりして音や手触りを楽しみます。次に油性ペンを手に取り、巨大プチプチや、小さいプチプチに色を塗っていきます。しばらくすると、シールが出てきました。プチプチにシール

を貼ったり自分や友達に貼ったりと、子どもたちは、時間の経過とともに自由に、大胆になっていきました。中には、プチプチでアクセサリーを作ってみんなに付けてあげたり、ペンでネイル屋さんを始める子も現れ、それぞれの楽しみ方でプチプチの世界を満喫しました。

最後に巨大プチプチを立て、窓の光を透かして鑑賞しました。光り輝く巨大プチプチからこの日のみんなの楽しい笑い声が聞こえてきそうな素敵な作品になりました。



## 参加者の声

- 楽しかったです。ひらひらがよかったです。
- 足や手も、塗っておもしろかったです。
- ペンを使ってネイル屋さんをしたことが楽しかったです。
- プチプチが気持ちよかったです。
- マジックで描いたりシールを貼ったりして楽しかったです。
- ぶらさがっているプチプチに色を塗ったことが楽しかった。
- 絵を描くのが好きな児童もおり、生き生きと取り組んでいました。素材の感触も楽しんでいました。(教師)
- 子ども同士がお互いに取り組んでいたことをまねたり、一緒に取り組んだりすることで、活動を広げていく姿が見られた。(教師)



## 参加者の声

- 吹く、垂らすなど水彩ならではの技法で様々な研究、体験ができておもしろかったです。乾いた後に薄いピンクをかさねるのがとても美しく気に入りました。
- ワークショップに参加することで、普段描かないような画風、技法をつかった作品を描けるので、いいと思いました。
- ストローを使って描くのが一番楽しかったです。講師の方もよく話しかけてくださっていい時間を過ごせました。
- 初めての抽象画だったので、新鮮で楽しかった。人によって作る色みが全然違っておもしろかった。
- 悩むより先に手を動かして楽しんでいる様子でした。普段「何を描くか」で悩んでいるので、今回の自由に抽象画を描くという経験をさせていただいて良かったです。みんな夢中で作品に向かうことができていました。(教師)

# 11/30(木) 福島県立伊達高等学校(美術部)

14名参加

シアン、マゼンタ、イエローの3色と、ホワイトの透明水彩絵の具を使って「今」を抽象画で表現しました。まずは色づくりです。3色でどんどん色を作ってハガキサイズの紙に置いていきます。たくさん色を作って置いていく中で、自分が好きな色を見つけていきます。次に、技法の紹介です。にじみやかすれ、ストローで絵の具を吹いたり、固い絵の具をヘラで搔いて伸ばしたりと、様々な技法をよしもとさんが実演しながら紹介していきます。最後は、作品づくりです。たくさんの実

験を重ねたため、迷いなく、そして丁寧にF4号の水張りパネルに、心のままを表現していきます。制作する中で「心の奥にあって外には見せない気持ちを今、出せている」と話す生徒もいました。完成後はみんなで鑑賞会です。よしもとさんからすべての作品にあたたかいコメントをもらいながら、お互いの作品を味わいました。生徒たちは心のままに、自由に表現するのを楽しみました。

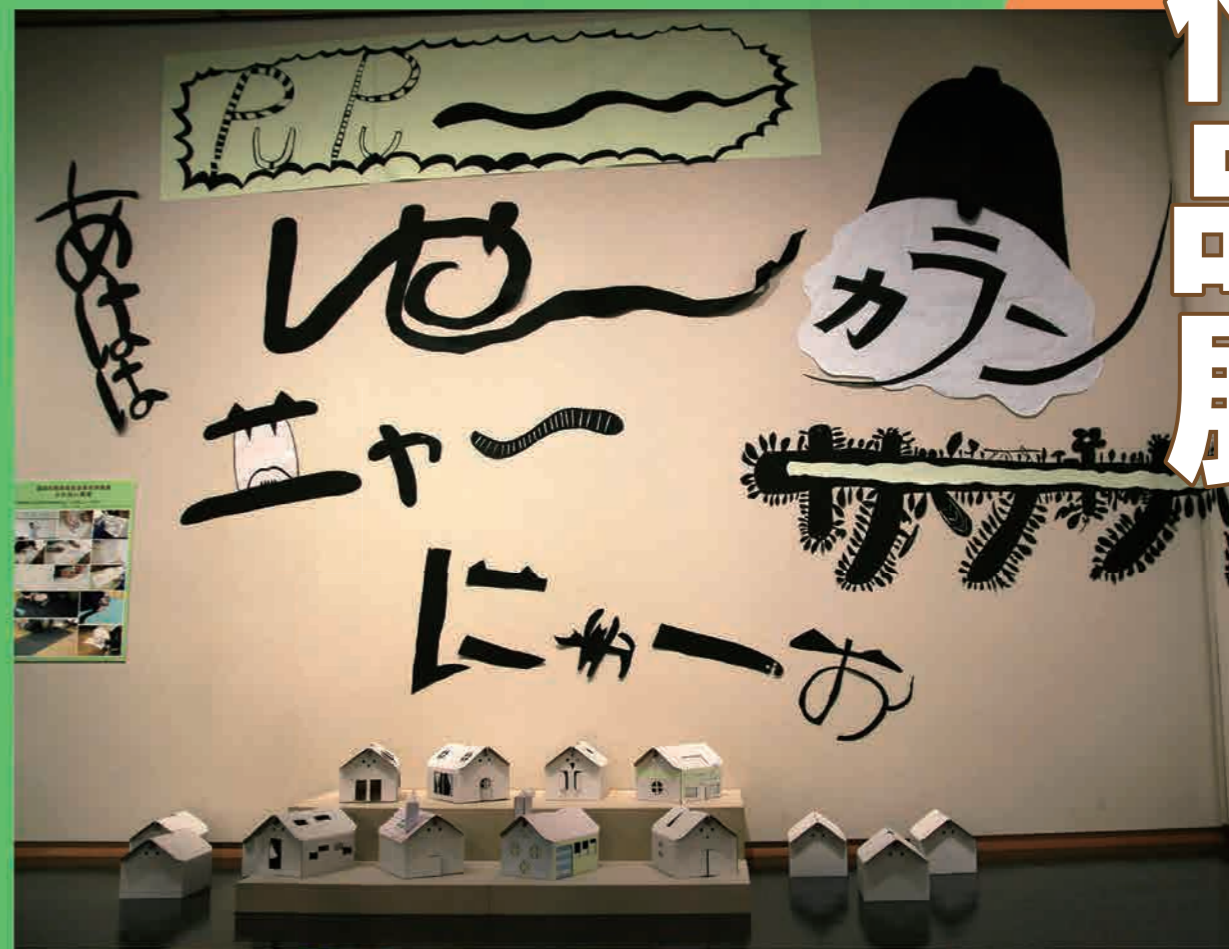




## 作家からのメッセージ

### よしもとみか

今日は寒いかな暑いかな。  
から風かな、湿気を含む風かな。  
春の匂い、夏の匂い、秋の匂い、冬の匂い。  
お正月の匂いもあれば、春にも春のはじまりの匂いがあったり。  
1日1日同じ日はなくて、  
それを自分の感覚を使って感知する。  
それは絵で表現しなくても  
言葉でも料理でもただ色を選ぶだけでも  
自分のフィルターを通して伝える人  
五感をつかって生きる人の事を  
私はアーティストと捉えています。  
今日はどんな日だったでしょうか。  
“あなたの感覚”を今生きるこの世界に  
音や匂いや色など物質として伝える時  
何を選ぶでしょうか。  
また次に会った時におしえてください。  
ありがとうございました。



# 作品展

2024.02.10~02.25

福島県立美術館  
企画展示室B

2024年2月10日(土)~2月25日(日)  
▷ FRIDAY SCREENワークショップ  
▷ よしもと みかワークショップ



FRIDAY SCREENワークショップ  
でこぼこ  
「凸凹テキスト」

### 作品展会場アンケート

#### 【感想や意見など】

- 子どもの感性から作られる作品は、時にドキリとさせられる程、大人にささるとてもおもしろい展示だった。
- 4歳の子ともと見に来ました。良い刺激や視野が広がるきっかけになれば良いです。何を作ったらいいのかわからない、正解がないものを楽しむことを自分自身も子どもの頃、知りたかったなあと今になって感じます。
- 自分の考えをアウトプットする行動は、大人になると表現に関心がないと自主的に行うことは少なくなると思う。子供の頃にこういう経験があれば、大人になったときに表現がひとつの選択肢になりうる可能性ができて、とてもよいと思いました。

#### 【学校連携共同ワークショップについて】

- 作品作りが楽しかったので、またやりたいです。
- 子どもたちに柔軟な発想を与える。学びとってもらうためのすばらしい事業。
- 学生も、講師も普段できない経験や発見があって、とてもよいと思います。
- 非常に良いと思います。このような難しい時代で、自分を表現できる場を設けることは、様々な問題解決につながるのでは、と感じます。
- 自身が子どもの時に体験したかった。広く続けてほしい。



よしもとみかワークショップ  
「私の「いま」を色と形で  
表現してみよう」

### アートによる新生ふくしま交流事業

芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図る「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び、子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供する「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を実施しています。

### アートで広げる子どもの未来プロジェクト

福島を担う子ども達に、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで、心豊かな成長を支援します。

### 学校連携共同ワークショップ

#### おとなりアーティスト2023 実施校一覧

##### FRIDAY SCREENワークショップ

須賀川市立岩瀬中学校	1年生	10月4日(水)	36名
郡山ザベリオ学園小学校	1年生	10月5日(木)	26名
福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)	小学4年生	10月20日(金)	5名
	～中学3年生	11月9日(木)	6名
		11月10日(金)	6名
郡山市立日和田中学校	美術部	11月11日(土)	7名
郡山市立御館中学校	1・2年生	11月13日(月)	26名
会津美里町本郷生涯学習センター	年中～6年生	12月16日(土)	25名

##### よしもとみかワークショップ

福島県立いわき支援学校くぼた校	高等部1年生	10月19日(木)	12名
小野町立小野小学校	6年生	11月2日(木)	65名
福島県立富岡支援学校	小学部1～6年生	11月16日(木)	20名
福島県立伊達高等学校	美術部	11月30日(木)	14名

実施校合計10校、参加者合計248名

アートによる新生ふくしま交流事業 「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」  
学校連携共同ワークショップ「おとなりアーティスト2023」

発行 2024年3月  
制作・編集 福島県立美術館、認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島  
写真 福島県立美術館(齋藤 恵、白木 ゆう美)  
デザイン デザイニングマーブル

主催 福島県  
事業受託者 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

【冊子及び事業への問い合わせ先】

認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島  
福島県福島市三河北町2-8Coco Mezon1階B室  
TEL・FAX 024-563-1955 E-mail info@f-jdi.com